

## 正 誤 表

「乳房超音波診断ガイドライン（改訂第4版 第1刷）」

下記の箇所にて誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
7	本文左段・下から4行目	乳輪部をsubareola (S)	乳輪部をsubareolar (S)
51	図 III-35 の図タイトル	<u>DICS</u> を伴う乳管内乳頭腫 (1)	<u>DCIS</u> を伴う乳管内乳頭腫 (1)
	図 III-36 の図タイトル	<u>DICS</u> を伴う乳管内乳頭腫 (2)	<u>DCIS</u> を伴う乳管内乳頭腫 (2)
52	図 III-37 の図タイトル	<u>DICS</u> を伴う乳管内乳頭腫 (3) (高分子ケラチン染色)	<u>DCIS</u> を伴う乳管内乳頭腫 (3) (高分子ケラチン染色)
66	本文「4 超音波の音速」 5～9 行目	通常，物体は温度の上昇とともに音速は低下するのに対して水のみが低下する．したがって脂肪組織は温度の上昇とともに音速は低下するが，水分が大部分を占める組織では温度の上昇とともに音速は上昇する．	通常，物体は温度の上昇とともに音速を低下させるが，水のみが温度の上昇とともに音速も上昇させる．したがって脂肪組織では温度の上昇とともに音速は低下するが，水分が大部分を占める組織（乳腺組織，腫瘍，皮膚など）では温度の上昇とともに音速は上昇する．
	表 IV-1 低／減衰型の欄 6 行目～	濃縮嚢胞 硬化性腺症 <u>濃縮嚢胞</u> 脂肪壊死 <u>RS/CSL</u>	濃縮嚢胞 硬化性腺症 脂肪壊死 <u>放射状瘢痕</u> <u>複雑性硬化性病変</u>
	表 IV-1 低／中間型の欄 9 行目～	<u>RS/CSL</u> <u>濃嚢胞</u> 過誤腫	<u>放射状瘢痕</u> <u>複雑性硬化性病変</u> <u>濃縮嚢胞</u> 過誤腫
	表 IV-1 高／増強型の欄	乳瘤	<u>粘液癌</u> 乳瘤
77	本文左段下から 4・5	検診では大きさを基に精密検査の要否を判定するが	検診では大きさを基に精密検査の要否を判定するが

	行目	(p.122 参照),	(p.123 参照),
85	本文左段下から 6・7 行目	<u>前方境界線の断裂</u>	<u>乳腺境界線の断裂</u>
86	図 V-34	略	<p>充実性腫瘍</p> <p>良性所見(カテゴリー 2) 1) <math>\leq 20</math> mm, <math>DW &lt; 0.5</math>, 境界明瞭平滑 2) 粗大高エコー 3) 円弧状の高エコー, 後方エコー減弱・欠損</p> <p>悪性所見(カテゴリー 4, 5) 1) 境界部高エコー像(halo) 2) 乳腺境界線の断裂 3) 点状高エコー</p> <p>すべてなし      いずれかあり</p> <p>明瞭粗ぞう/境界不明瞭 <math>D/W \geq 0.7</math>      カテゴリー 3a(経過観察*)      カテゴリー 3b(生検) 不整形</p> <p>*4~6 ヶ月後の再検査で変化がないことを確認するのが望ましい</p> <p><b>図 V-34 初心者教育用 B モード判定フローチャート</b> 本フローチャートの上部(良性所見と悪性所見)は、内容的には要精検基準の充実性腫瘍部分と同じである。</p>
104	本文右段上から 3・4 行目	②内部エコー：低エコー、 <u>石灰化を示す点状の高エコーを複数有することが多い</u>	②内部エコー：低エコー
105	本文右段「7 悪性リンパ腫」の「b 超音波所見」3 行目	後方エコーは <u>減弱</u> する	後方エコーは <u>増強</u> する
124	図 IX-1 注釈・下から 3	<u>腫瘍</u> 全体の大きさが	<u>腫瘍</u> 全体の大きさが

	行目		
131	図 IX-21 の図タイトル	<u>吸収</u> な充実成分	<u>急峻</u> な充実成分

2022年9月14日

株式会社 南江堂